資料１

第５回委員会で答申（案）にいただいた主な御意見

分類	エリア等	御意見
方策	全体	手法の検討の視点について、用途地域や高度地区を見直すことが目的かのような印象を受けるが、これが前面に出過ぎないようにした方が良いのではないか。
		答申案には、本委員会が都市マスの見直しを受けて議論してきた結果として、用途地域や高さ規制の見直しが必要であることをしっかりと書くべきである。
		本委員会として、都市格の向上により高まった熱をどう伸ばしていくかを議論してきた結果として、用途地域や高度地区等の見直しが必要であることは示すべきである。現に九条通以南については、具体的な容積率のデータを基に勿体ないことになっていることを確認し、若い人を受け止められていないことを議論してきたのだから。
		都市基盤の状況を踏まえ、物理的に大きな企業を受入れやすいらくなん進都での方策の一例に挙げた本社オフィスの集積については、市域全体で本社機能を含むあらゆるオフィスの受入れを目指すことを示したうえでの記載とした方が良いのではないか。
		ビジョンを実現するためには、都市計画だけに閉じた議論では良くないので、様々な施策連携と役割分担の下で進めていく必要性についても記載しておいてはどうか。
		この間、都市計画以外の施策の必要性も含めて議論を進めてきたが、路地再生や京町家保全等との連携については、この間の議論だけでは整理しきれない部分もあるため、答申に唐突な記載とならないようにした方が良いのではないか。
		古いものに新しい風を呼び込んでいくための開発も大事だが、どんどん新しいものを造るだけでは意味がない。むしろ、新しいものを造ることで、古いものを活かすといったソーシャルな取組につなげていくような「温故知新」の発想が大事。
		環境はクリエイティブ層の感性に刺さるところが大きく、ソーシャルとエコとの親和性も高いので、環境配慮の必要性について記載を充実できれば良いのではないか。
	京都駅南部・西部	「京都駅南部」や「梅小路京都西駅周辺」における京町家の記載が、なお書きとなっており、取ってつけたような感じになっているが、歴史的なものをもっと大切に扱った方が良い。各エリアにとって大切な将来像として示すためにも、中盤に盛り込む方が方策との関係も分かりやすくなるのではないか。
		「竹田街道などの旧街道沿道」と記載しているが、一口に旧街道沿道として、何も対策を講じない対象が広がってしまうことは良くない。竹田街道の全てで何もしないというふうに想起させる表現は、今後、京都を創造する際のバリアーにならないかと強く懸念する。新しいものを入れていく考え方も大事。
		若い人のクリエイティブな活動を受け止めていくため、守るべき町家は絶対死守しなければいけないが、逆に風情がなくなってきている竹田街道においては、発展に向けた方策を書いておかないと、将来的に何もないことになってしまうのではないか。
	らくなん進都	都市マスの地域まちづくり構想でも「業務・商業機能を集積」するエリアとされているポテンシャルを発揮させるためにも、竹田駅周辺については、駅から南北に伸びる油小路通や、パルスプラザ周辺とのつながりも考慮した方が良いのではないか。
		らくなん進都や竹田駅周辺を対象エリアとすることについて、「広域拠点エリア」との近接性から導き出しているが、駅周辺の議論をしてきた経過を踏まえると、「地域中核拠点エリア」との関係性からも記載を充実すべきかどうか検討してほしい。
記載	議論の経過の提示	この間、駅周辺について議論してきたことの重要性を示すためにも、本委員会の目的が、検討内容から出口まで一貫していることをしっかりと答申に示すことが大事。
		この間委員会で議論した内容が分かるように、使用したデータを可能な限り示していった方が良い。その方が、答申に書いたことの必要性も伝えやすくなる。
		本委員会では、しっかりとしたエビデンスに基づいて議論を進めてきた。個人情報の関係もあるが、そのことを答申にも分かるように記載すると良いのではないか。
	構成等	駅周辺のことだけに止まらない議論をしてきた本委員会の趣旨が少しでも伝わるよう、記載内容の充実や、副題を付すなど、検討してほしい。
		政策意図を伝えるためには、ある程度冗長にならざるを得ないと思うが、できる限り市民に伝えるための工夫を図ることは大事。
		各箇条書きは、課題と施策の部分を切り分けた方が分かりやすくなるのではないか。